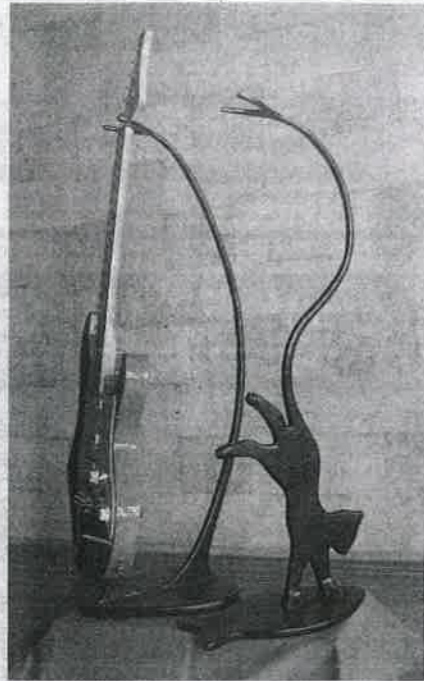
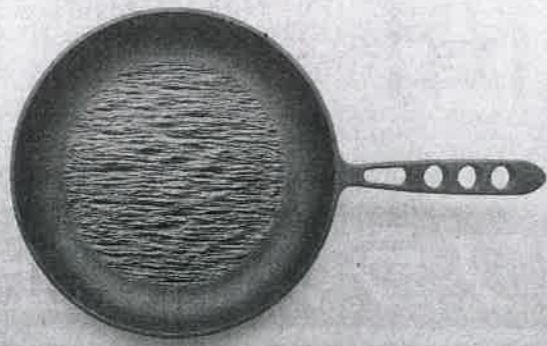


REGIONAL ECONOMY



古久根のギタースタンド、左が「スタンダード」、右が「ジャンピングキャット」



石川鑄造の「おもいのフライパン」



鈴木紙器のストイレ。手前が組み立て後、奥が保管時

鈴木紙器 段ボールで防災・アウトドア製品
石川鑄造 肉をおいしく焼く鑄物フライパン
古久根 環境配慮の鑄造でギタースタンド

技術生かしてBツーC

中小参入 事業に幅

BツーC(対消費者)事業に挑む中小企業の動きが活発だ。販路づくりが容易な電子商取引(EC)サイトやふるさと納税返礼品への登録といった手段を活用し、従来のBツーB(企業間)事業で培った技術を生かしながら、一般消費者向けの商品の開発と販売を推進している。鑄物などの伝統産業が盛んな愛知県碧南市のケースから、BツーCで事業の幅を広げようとする中小企業の動向を探る。

(名古屋・津島はるか)

段ボールの製造を手0円、ダイニングが4がける鈴木紙器(愛知400円。それぞれ年県碧南市、鈴木洋社 間1200台の販売を長は段ボール製品の 目指す。

自社ブランド「スズギ」災害時やアウトドアアを立ち上げ、Bツなどでの使用を想定しIC事業に参入した。ており、折りたたむと第1弾は組み立て式簡省スペースで保管がで易トイレ「どこでもスズギ」。耐荷重は簡易トストイレ」と、いす4イレが1ト、ダイニング脚と机2卓のセットのいすが120キ、どこでもスズギニと強度も確保した。材ング。消費税込みの料には、汎用的な段ボール価格はトイレが880ールを使用しているた

め、捨てる際は通常のた。22年7月には同製品方法で廃棄できる。

2012年に東北工場(宮城県柴田町)をのフライパンハン設立後、周囲から東日ドブック)を発売。9本大震災で避難した際の話の聞き「非常時に必要な物を段ボールでも取り扱う予定だ。作れないか」(鈴木社長)と、防災用品製作とタレも開発中。「タの検討を始めた。さまざまな用品の試作を重ね、今回ようやく製品だわっている、年内には発売したい」(同)。

段ボールの廃材とお 今後は海外のクラウドがくずを利用したアウトドファンディング(Cトドア用着火剤も開発 F)サイト経由での海中だ。工場内での出展も視野に入れてボールの端材は収集しプ用品の開発も検討リサイクルしているが、一部はゴミとして中。石川社長は「商品処理している。「従来を充実させ、来店と廃棄していたものを、もに工場見学ができる製品として世に出すこ工場敷地内実店舗も構とで社会貢献をした想している。どんどんい」(同)という思い新しいものに挑戦しなで開発に着手した。担当の角谷貴字営業部課

長は「段ボールくずと おがくずの割合や接着置向けの鑄物部品メー材の相性が難しく実験カーである古久根(愛を重ねている段階だ知県碧南市、古久根靖が、キャンペーンズン社長)は環境に配慮しに間に合うよう22年度た鑄造法で製造するギ中には発売したい」とタースタンド「キャスタンド」を開発した。

その他の「スズギア」製品も順次増やしていく計画だ。アウト水道・半導体製造装ドア製品や、周辺企業に用いる「消失模型鑄と協力して地域全体で造法」で製造する。同廃棄物を減らせる製品製造法は他の鑄造法のように砂を固める必要がなく、砂の再生処理が不要で環境にやさしい」と強調する。

水道・産業機械関連部品の中心に製造する。自社ブランド製品老舗鑄物メーカーの石川鑄造(愛知県碧南市、石川鋼逸社長)は 8月9日から碧南市17年に、肉をおいしくのふるさと納税返礼品焼くことに特化したとして公開を始めた。「おもいのフライパン」を発売し、Bツーームページ(HP)でC事業を開始した。

「新規事業として鑄物の技術力を使った自子を見ながら、販売で社製品を検討した結果がフライパンだった。と古久根社長。現在は売れ行きは想定よりも好評だった」(石川社長)「ジャンピングキャット」(石川社長)「ジャンピングキャット」の2種類を用意しているが、「ホームページ(HP)上で販売初から約10倍に、売り上げるまでにはラインアップを伸ばしたい」と占めるほどに成長し意気込む。

西日本